

ライバルたち

前回は私が高校時代に読んだ本の話でしたが、今回は小学校二年生の時に読んだ本の話です。ちばてつやさんが描かれた「紫電改のタカ」という漫画ですが、1963年（昭和38年）から65年まで少年マガジンに連載されました。太平洋戦争でグラマン戦闘機と闘ったりしますが、仲間や上官との様々なやりとりやアメリカの若者との交戦を通じた友情が描かれていました。ほろ苦く、少しせつない物語ですが、私はこの漫画でアメリカを意識するようになりました。

余談ですが、1963年11月にケネディ大統領が暗殺されたニュースも覚えています。長女のキャサリンちゃんが可愛くも、悲しそうな姿が子供心に衝撃的でした。先年、日本大使になられたキャサリンさんが長崎にみえられた時は、診療中でしたが、落ち着きませんでした。

紫電改のタカではそれぞれの事情で戦うのですが、それを互いに理解し、ライバルとして認め合うことがとても印象的でした。私のライバルは世界中の同期たちと思っています。元横綱の千代の富士やマイクロソフトのビルゲイツなど多彩ですが、それぞれが頑張っている姿に触発されて、俺もやらねばと思ってやってきました。

今も、アメリカ人に負けてはいかん、と思ってアメリカの学会員にもなって、送られてくる手術などのビデオで勉強しますが、早口の英語についていくために、趣味も英語の映画やポップスや小説などです。これも元は紫電改のタカで教えられたアメリカ人には負けられん、という気持ちからです。

よきライバルを持つことは様々な効能があります。

